

(10)九州



九州地域では、景気は弱いながらも回復の動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

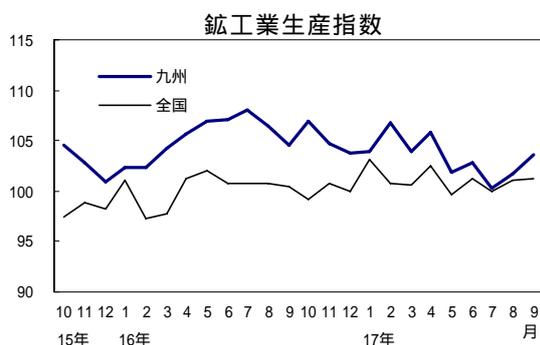
前回調査からの主要変更点

なし。

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

電子部品・デバイスは、携帯電話向けなどの汎用品の集積回路が引き続き不調だったものの、ゲーム機向けや、車載向け、液晶テレビ向けといった高付加価値品が持ち直してきており、全体としては7四半期ぶりに増加に転じた。輸送機械は、北米向けを中心に輸出は好調であったが、国内向けが伸び悩み、生産は低下した。一般機械は、海外における設備投資の一服感から半導体製造装置、一般用蒸気タービン等を中心に減少している。食料品・たばこは、焼酎が引き続き好調であり、また気温が高めに推移したことから清涼飲料とその原料となる砂糖等が好調であったため増加した。化学は、自動車や記録メディア向けのプラスチック原料などが好調だったことから増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4～6 月期	7～9 月期	7～9 月期	7～9 月期
電子部品・デバイス	14.9	3.3	0.2	0.5	9.7
輸送機械	11.7	0.6	4.1	2.3	124.7
一般機械	11.0	12.1	7.1	6.8	7.7
食料品・たばこ	10.8	7.4	3.7	3.9	10.4
化学	8.5	2.1	0.7	1.2	6.7
鉱工業	100.0	1.3	1.5	2.5	5.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 7～9月期は速報値。

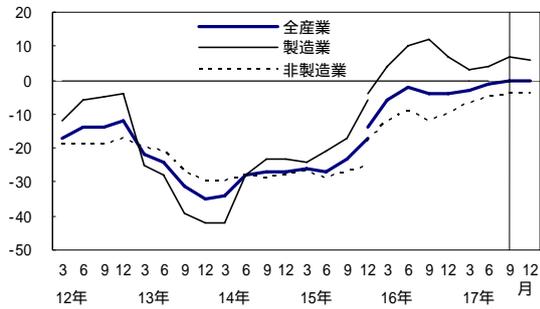
(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成17年9月の九州は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「良い」と「悪い」とが同数となっており、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。

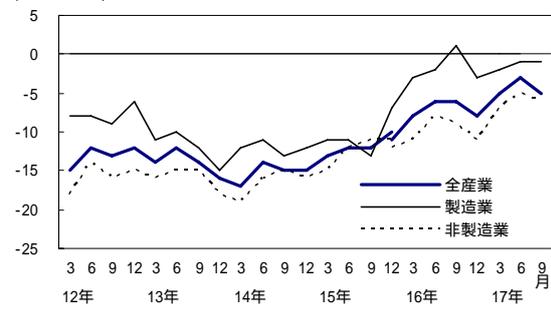
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



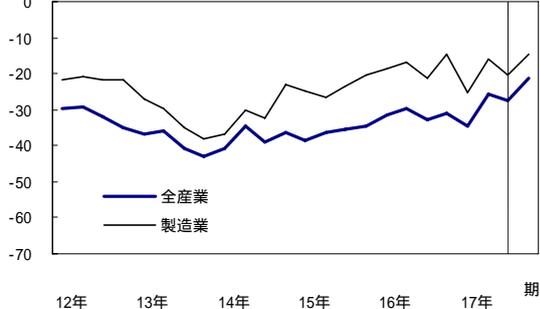
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。17年12月は予測。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。17年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

「7、8月末にかけて成約した受注残が多くあるため、販売量は順調に推移している。しかし新規物件に乏しく、引き合い、成約が低調になってきた(鉄鋼業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 17年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

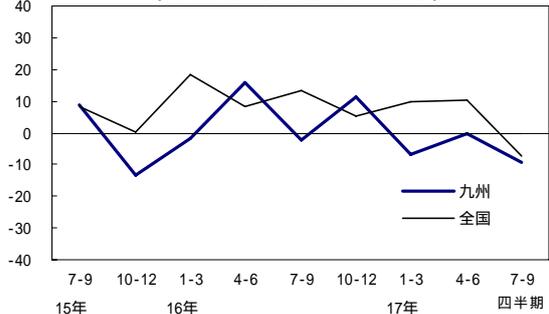
企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

(前年度比、%)

	16年度実績	17年度計画
全産業	6.2	3.6(1.6)
製造業	38.7	12.6(3.7)
非製造業	8.3	2.4(0.1)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。

(%) 建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

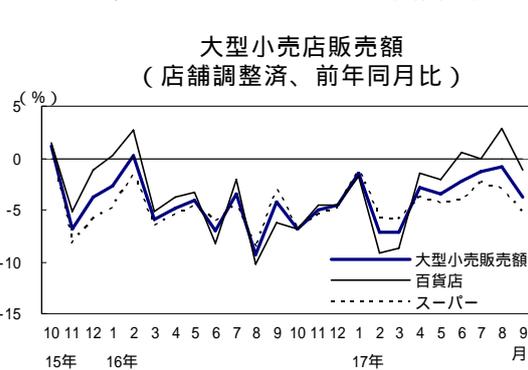
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、7月は、クリアランスセール効果で身の回り品、婦人服を中心に動きがみられ衣料品が好調であったものの、中元ギフトの早期受注の反動減から飲食料品が不調で前年を下回った。8月は、セールやクールビズ効果等から、全品目において動きが好調だったため、前年を上回った。9月は、飲食料品の動きはよかったものの、厳しい残暑が続いたため秋物衣料の動きが鈍く、全体としては前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州地区の10月の売上高は、前年同月比で0.9%の減となっている。

スーパーは、精肉、鮮魚、飲料など飲食料品の一部や、健康補助食品、化粧品などのその他の商品において一部動きがみられたものの、全体としては、日曜日が1日少なかったことや、衣料品の不調により、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

「秋物の立ち上がりが遅れたが、今月中旬から急に寒くなり、来客数が増えた。地元球団関連セールもあり、販売数も増えたが、客単価が低いいため売上は横ばいである(衣料品専門店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



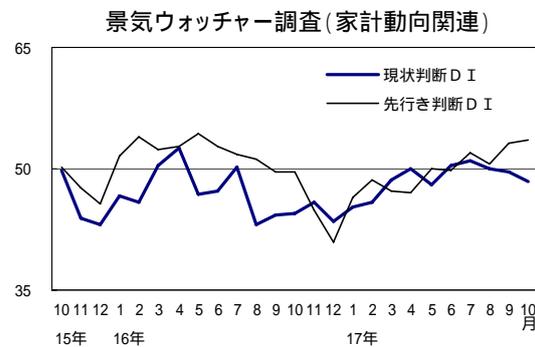
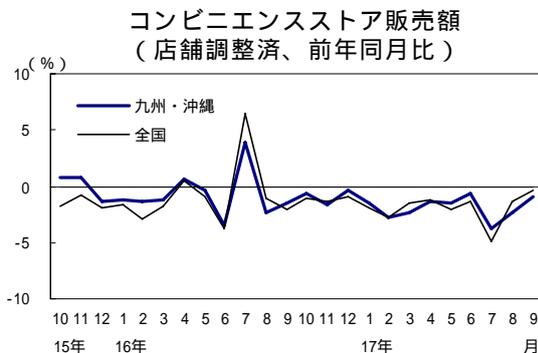
(前年同期比、%)

	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	5.4	5.1	2.9	1.9
百貨店	5.2	6.4	1.0	0.4
スーパー	5.6	4.1	4.1	3.6
コンビニ	0.9	2.2	1.2	2.4
景気ウォッチャー	44.6	46.6	49.5	50.2

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

九州・沖縄地区。

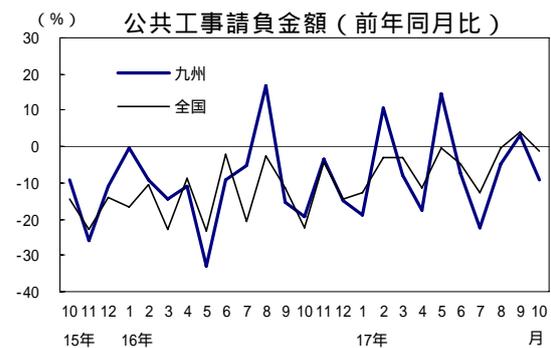
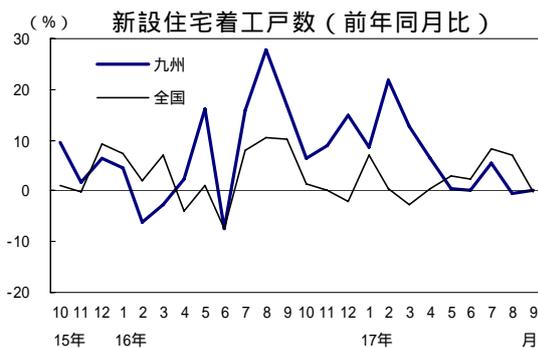
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。



(2) 住宅建設は増加している。

持家、分譲が前年を下回ったものの、貸家が上回ったことから全体では増加している。

(3) 公共投資は17年度累計で見ると前年度を下回っている。

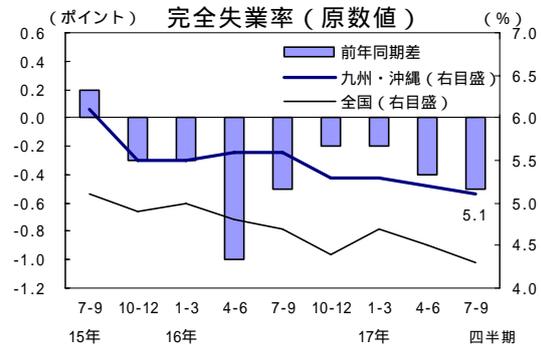
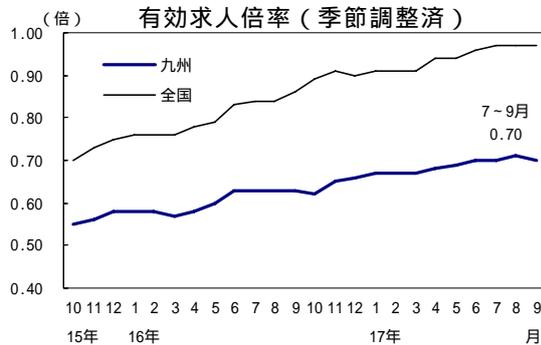


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きも強い。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（10月）[雇用関連（現状）]

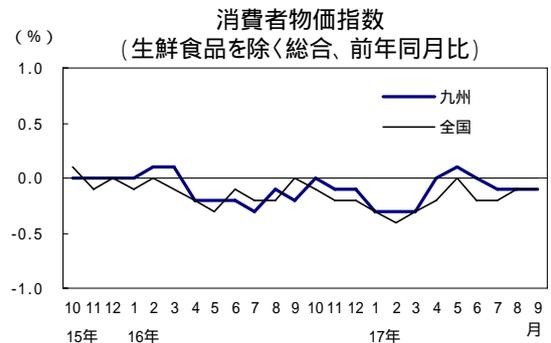
「新規求人は堅調に推移しており、新規高卒求人も前年比26%増加している（職業安定所）」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「待機スタッフの状況を見ても長期的なアルバイトに就業しているケースが多く仕事が見つかりやすい状況であるが、景気が上向いている状況にまではいかない（人材派遣会社）」など「変わらない」とする回答もみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	16年10-12月	17年1-3月	4-6月	7-9月	17年10月
倒産件数	299	275	315	270	89
(前年比)	10.7	8.3	9.8	4.6	15.2
負債総額	1,049	872	1845	1148	451
(前年比)	47.1	10.8	72.4	25.4	16.0



景気ウォッチャー調査（10月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・客数と客単価がここ数か月間、上昇傾向である（家電量販店）

<先行き>

・ウォームピズで紳士用品、雑貨を中心に売上が期待できる（百貨店）

景気ウォッチャー調査（合計）

